

芸術科 「書道Ⅲ」 シラバス	単位数	2 単位	担当者	
	学科・学年・学級		普通科 第3 学年 選択者	

1 学習の到達目標等

学習到達目標	1. 書道における幅広い創造的な活動をととして、生涯にわたり書を愛好する心情と広い視野から書の文化や伝統を尊重する態度を育てます。 2. 書を理解しこれを楽しむ態度をととして感性を磨き、個性豊かな書の表現と鑑賞の能力をより一層高めていきます。
使用教科書・副教材等	書道Ⅲ（書Ⅲ 303） 教育出版

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	学習内容	学習のねらい	備 考
1 学期	4	1 漢字の書の学習 半紙への臨書	各自が選択した古典について範囲を決め半紙に4字または6字の臨書をします。 小筆での原寸臨書をととして全体の雰囲気把握をします。	世界史の学習に関連します。 古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します。
	5	画仙紙への臨書 制作への発展	臨書作品として字数や配置、落款等の位置を含めて構成を工夫します。 それまでの臨書の学習を生かし詩文や形式を選択し、倣書の方法を身につけます。	書体や詩文は自らの感性に基づくものを選択します。
	6			
	7			
2 学期	9	鑑賞の学習	臨書及び創作作品について鑑賞します。 相互の作品を鑑賞し文章にまとめ発表します。	自分の考えを文章で表現する力を養います。
	10	2 仮名の書の学習	各自が選択した仮名古典の臨書を行い表現技法を身につけます。 それぞれの古典について字典を作成し制作の資料として活用します。 散らし書きを行います。	日本史の学習に関連します。 古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します
	11	3 漢字仮名交じりの書の学習	自由に選んだ詩文を題材に作品の制作を行ない、カレンダーに仕立てます。	書体や詩文は自らの感性に基づくものを選択します。 書体や形式は自由に選択します。
	12			

3 学 期	1	4 表現の広がり	自分の好きな絵や写真を選びます。 選んだ絵や写真にふさわしい詩や句など選択します。 双方をパソコンに取り込み、画像加工ソフトを用いて合成します。	書体や詩文は自らの感性に基づくものを選択します。 書体や形式は自由に選択します。 情報の学習に関連します。
-------------	---	----------	--	---

【課題・提出物等】

- 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。
- 2 提出前の途中経過を記録としてファイルします
- 3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い自己評価します。
- 4 課題に応じて作品を提出します。

【評価方法】

- 1 提出作品、「学習記録」の記録状況、「学習のまとめ」の内容を中心に用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度なども含めて総合的に評価します。
- 2 提出作品については臨書においては対象となる古典の特徴を表現できたか、作品の制作においては意図した表現に近づくことができたかが評価の基準となります。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法
皆さんの学習状況は、「関心・意欲・態度」「芸術的な感受や表現の工夫」「創造的な表現の技能」「鑑賞の能力」の4つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・書を愛好し、古典の学習をととして書の文化や伝統についての理解を深めようとしているか。 ・漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の学習をととして、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・「学習記録」の記入状況 ・作品ファイルの整理状況 ・「学習のまとめ」の内容 ・提出作品
芸術的な感受や表現の工夫	・感性を高め、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書の学習をととして個性豊かな能力を伸ばし、創造的な表現を工夫しているか。	・提出作品 ・「学習記録」の記入状況 ・「学習のまとめ」の内容
創造的な表現の技能	・漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書において個性豊かな表現をするために、幅広い表現理論と技能を身につけているか。	・提出作品 ・作品ファイル ・「学習記録」の記入状況
鑑賞の能力	・古典の学習をととして書の歴史や文化について理解し、鑑賞の活動の中で書の美を分析的、総合的に捉え、そのよさや美しさを味わっているか。	・「学習記録」の記入状況 ・「学習のまとめ」の内容

3 確かな学力を身につけるためのアドバイス

・書道の学習においてはまずよく見るのが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 ・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成、また作者や時代背景といったさまざまな要素について考え分析する姿勢が大切です。 ・技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切です。そのために「学習記録」はていねいに書きましょう。 ・作品の制作においては「今自分は何を表現したいか」を第一に考え、詩文や用具・用材などを積極的に選択していきましょう。
--